

ヘリコバクター・ピロリ (以下ピロリ) についての Q&A

Q1. ピロリってどんなもの？

ピロリの正式名は「**ヘリコバクター・ピロリ**」といいます。数本の鞭毛を持ち、胃の中を移動する菌で、オーストラリアの医師（*マーシャルとウォレン）が発見しました。胃の中は胃酸によって強い酸性になっていますが、胃の中にある尿素をピロリが出す酵素（ウレアーゼ）で分解し、アンモニアを産生することで **胃酸を中和し、胃の中にすみ続けます。**一度体の中に入り込むと、**排除しない限りほぼ生涯にわたって胃の中にすみ続けます。**



※ 両博士は2005年にノーベル医学生理学賞を受賞

Q2. ピロリはどうやって体の中に入ってくる？

ピロリは口から入ってくると言われています。現在、一番大きな原因は**家族内感染**です。家族の中にピロリ保有の方がいた場合、不十分な手洗いなど何らかの原因により、幼少期のお子さんの口から入り込むと言われています。

Q3. なぜ中学生にピロリ治療が必要な？

ピロリは主に **小学校に入る前頃までの抵抗力が弱く、胃酸分泌が少ない幼少期に体の中に入り込む**と考えられ、**気づかないまま胃の中にずっとすみ続けます。**ピロリがすみ続けると「**胃炎**」になり、慢性的に胃炎が続くと「**萎縮性胃炎**」になります。そして、「**胃潰瘍**」「**十二指腸潰瘍**」が起こりやすくなり、さらに「**胃がん**」の原因になります。また、「**鉄欠乏性貧血**」などの原因になることもわかっています。

ピロリが体の中に入り込んで間もない中学生のうちに**内服治療**を行うことで、**胃潰瘍や十二指腸潰瘍、そして胃がんをほぼ確実に予防できると考えられているから**です。

【背景】2013年にピロリの存在による胃炎に対する排除治療が保険適用となり、2014年には、世界保健機構（WHO）が胃がん対策として、ピロリ抗体検査と陽性者に対する排除治療実施勧告を出しました。

Q4. ピロリの検査はどんなもの？

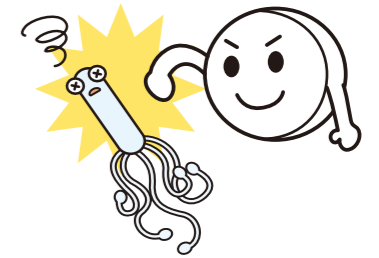
内視鏡（胃カメラ）で胃の生検（細胞を採取すること）を用いる検査と、用いない検査があります。**この事業では、内視鏡を用いない尿検査（ピロリ抗体検査）**を行います。学校定期健康診断で採る尿を活用しますので、採尿容器に線までしっかり入れて提出日に学校へ提出してください。**尿検査で陽性となった場合、**指定の医療機関を受診し、**二次検査（尿素呼気試験…息を吐いて調べる）**を受けていただきます。この検査での副作用はありません。**二次検査の結果でも陽性となった場合、内服治療**が行われます。



Q5. ピロリの治療はどんなもの？

2種類の排除薬と1種類の胃酸の分泌を抑える薬、3種類の薬を1日2回（朝食後・夕食後）服用します。飲み間違いのないよう写真のように**パックになっているお薬**を用います。治療薬の影響で下痢を起こすことがあるため、**整腸剤も一緒に飲んでいただきます。**

薬のアレルギー症状を起こしたことがある場合は、必ず事前に医療機関にご相談ください。



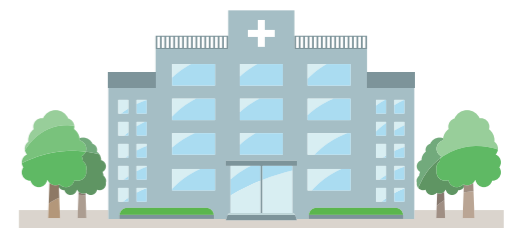
Q6. 副作用はある？

もっとも多い副作用は下痢と軟便です。1日数回程度の軽い下痢・軟便の場合では治療を継続します。他には味覚異常（味が少しおかしく感じる）や軽い吐き気、発疹が起きることがありますが、**治療が終われば自然と治ります。**

※厚生労働省研究費補助金を活用した全国調査（2013～2014年）によれば、内服治療を行った18歳以下の小児・青年343人では、全体で14.7%に副作用が認められ、軟便が4.1%、軽度下痢が5.2%、発疹が2.1%で、重篤な副作用の報告はありませんでした。

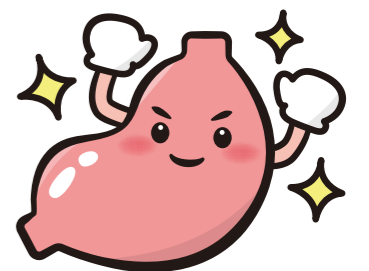
副作用に対しては、通常の診療が行われますが、ごくまれに薬に対するアレルギーで、気道の腫れによる息苦しさや血圧低下などアナフィラキシーという状態になる場合があります。

このような場合は、すぐに病院に連絡し、指示を仰いでください。重篤な副作用（治療による死亡、後遺症など）が生じたとされる報告は、現在のところ他市の取り組みでもありませんが、病院の加入する保険などで最善の対応をいたします。



内服治療後の検査(成功確認)について

7日間の内服治療後 8週間以上経過してから、医療機関を受診し、内服前と同じ尿素呼気試験を受けていただきます。その結果で、内服治療成功の有無を判断します。排除に失敗した場合には、個別に受診した医療機関と相談し、今後の対応を検討してください。



内服治療でのお願い

治療薬は、7日間の服用となります。

薬を飲み忘れてしまったり、飲むのを中断したりしてしまうと、排除がうまくいかなかったり、薬が効きにくいピロリ（耐性菌）があらわれてしまう可能性があります。

また、副作用があらわれる可能性もありますので、内服治療は夏休み等の長期休暇期間で受けられることをお勧めしております。

日	月	火	水	木	金	土
		✓	✓	✓	✓	✓
✓	✓					



飲んだら
カレンダーに
チェック
しましょう!

将来の病気予防のためにお願いしたいこと

中学生で内服治療することで、将来の胃がんをほぼ確実に予防できると考えられています。

しかし、内服治療をした人でも、ピロリが体の中に入り込んでいない人と比べると、胃がんの発症リスクは大きいと予測されています。

治療をした場合でも、症状があるときは、医療機関を受診してください。

また、将来の胃がん検診は是非受けてください。

治療を希望しない場合は、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、ポリープ、胃がんのリスクがより高いことをご理解いただき、症状があるときの受診や将来の胃がん検診の受診を強くお勧めいたします。

【問い合わせ】

鶴岡市健康課成人保健係 ☎ 25-2731 (直通)

〒997-0033 鶴岡市泉町5-30

鶴岡市総合保健福祉センター にこふる 1階



R6.1月作成

子どもたちの明るく幸せな未来に向けての 鶴岡市中学生胃がん予防事業のご案内

中学生を対象に **ピロリ抗体検査 及び 内服治療** を行います。

がんは死亡原因の第1位です。

鶴岡市では、胃がん死亡数は、肺がん、大腸がんに次いで第3位ですが、**がんに罹った人の中では胃がんが最も多い状況**となっています。

日本における**胃がんの原因は、95~99%以上がヘリコバクター・ピロリ** (以下ピロリ) の存在によるものと考えられており、胃がんが発症しやすい萎縮性胃炎になる年代の前の**中学生のうちに、ピロリを排除することで、将来の胃がんの発症をほぼ確実に予防できる**と考えられています。



注意:

ピロリ陽性=胃がん発症ではありません!



結果はすべて

直接ご自宅に郵送になります。

中学生の今だけ 検査費・治療費 は かかりません!

今、受けることをおすすめします!

『ピロリ』排除の効果!

- 胃がんの発症・再発防止
- 胃・十二指腸潰瘍の発症・再発防止
- 鉄欠乏性貧血の改善 など

検査・治療を受けられた中学生・保護者の方々の声

早期に検査し、
発見・治療できて
大変よかった。

将来への不安要素が
1つ減りありがたい。

貧血が治った。

尿検査でわかるのが
よかった。

食欲も増し、顔色も良くなり、
体力もついて、
とても元気になった。

家族の検査・治療の
きっかけになり、
大変助かった。

このような機会がなかったら
大人になるまでわからなかったので
本当によかったです。

胃の痛みが
なくなった。



ピロリの詳しい内容は内面をご覧ください

